

自治会の役割

田久自治会が担う役割は「住民の親睦」「住環境の維持」「行政との連携」の大きく3つに分類できる。「住民の親睦」では、盆踊りの開催や運動会、子どもの通学合宿などがあげられる。相互扶助の精神が今なお強く根付くこの地区では重要視されているものだ。「住環境の維持」では、資源回収や草刈り、カーブミラー、街路灯の点検などがある。そして「行政との連携」では、自治会での意見や要望を評議員会で取りまとめ、それをコミュニティ運営協議会を経由して市へ伝えるという役割を果たしている。

自治会に加入しない理由

田久の自治会加入率は年々低下しており、平成29年1月末時点では42.9%となっている。これは宗像市の平均加入率の71.7%を大きく下回る。低下の背景には、マンションの増加や、若年世代の自治会への理解が進まないことがあげられる。編集部が行ったアンケート調査によると、自治会に加入しない最も大きな理由は「入るメリットがわからない」というものであった。

重くのしかかる役員への負担

宗像市の調査データ*によると、自治会の課題として最も多かったのは、高齢世代の増加と担い手不足である。御多分に洩れず、田久でも自治会を支える担い手不足は深刻で、自治会を担うのは高齢世代が中心となる。田久の場合、役員は持ち回りではなく、選考委員会によって選ばれるが、役員は田久で生まれた「地元の人」がなるべきという声が強いため、特定の人に負担が偏っている。また、コミュニティ運営協議会の存在も無視できない。田久は赤間地区コミュニティに属する自治会の1つである。自治会行事とは別に、コミュニティ運営協議会が開催する行事があるため、自治会役員の負担は増加している。自治会長を例にみると、毎月少なくとも4回は定例会議がある。1回の会議を2時間と考えると、会議だけでも消費する時間は大きい。実際に自治会やコミュニティの運営に関わった人からは「会議の生産性を上げることは大きな課題

のひとつ」との声も。
※平成29年自治会における男女共同参画推進状況調査報告書より

本当に自治会は必要か？

「自治会はこれからの時代も地域にとって必要である」というのが年代問わず多くの市民の声だ。その理由としては、地域でのつながりづくりや住環境の維持、災害時の連携のためなどの意見が多く見受けられたが、若年世代からは「よくわからない」という意見も多かった。そのターニングポイントとなるのは子どもの存在だ。子育て世代では、子どものためにも地域を良くしたいという思いがあり、自治会に加入するメリットを感じやすい。一方で、単身世帯などは地域との接点が少なく、地域に関心を持ちづらいため、自治会に加入する必要性を感じにくい傾向にある。

時代の移り変わりと共に、人々の働き方や地域との関わり方は変わった。しかしながら、自治会の在り方は何も変わらずこれまでの手法では立ち行かなくなり、自治会は存続の大きな転換点に差し掛かっている。存続のためにはその在り方を変えていかなければならないが、伝統や地域性が複雑に絡みあう自治会の内部からそれを実行するのは簡単なことではない。任期の期間、波風立わず穏便に終わらせたいとの見方もある。そう考えると、自治会の在り方を変革させていくための鍵となるのは、地域を良くしたいと思う自治会とは別の住民主体の行動ではないだろうか。

田久は赤間地区コミュニティの1つに属する。世帯数は1,000を越し、宗像市内の自治会では大きな部類に入る。46年の歴史を誇る田久運動会や夏休みの通学合宿など独自の行事も盛んに行われている。

平成27-29年度 自治会加入数・加入率推移

		平成27年	平成28年	平成29年
宗像市	世帯数	39,858	40,308	40,911
	自治会加入数	30,043	29,835	29,317
	自治会加入率(%)	75.4	74.1	71.7
田久	世帯数	963	991	1,014
	自治会加入数	440	432	435
	自治会加入率(%)	45.7	43.6	42.9

地域のつながり創る 田久有志の会

「自治会に入って当たり前」は時代の変化により、いまや過去の常識となりつつある。新たな自治会の在り方を模索して取り組む田久有志の会には、自発的に地域の運営に関わる「有志」の仲間が集っている。

きっかけはカレー販売

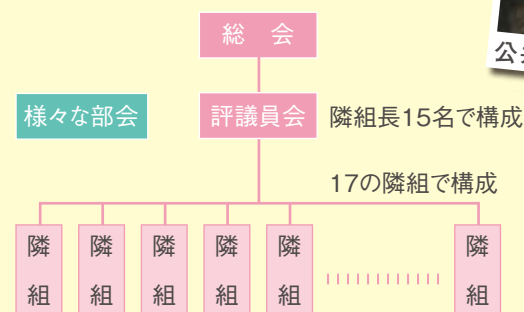
設立のきっかけは、有志で集まった住民が地域のイベントでカレーを販売したこと。イベントだけでなく、田久に住む一員として地元へ貢献できることはないだろうかと考え、2013年に田久有志の会は立ち上がった。立ち上げ時のメンバーの一人は「田久のために昼夜問わず地域づくりに励む先輩たちの姿を見てきました。自治会は田久の要です。自分たちのできる範囲でそれをサポートできれば」と立ち上げ時の経緯について話す。

自治会をサポートする

田久有志の会は、田久に住む19人のメンバーで構成され、子どもや家族を入れると40人を超える。自治会の再生を目的に、自治会への理解・認知度を高めるための広報活動や自治会事業のサポートなどを行う。自治会の広報活動では、地域行事やイベントなどに出店し、住民同士でコミュニケーションを図るきっかけを作ることを重視する。自治会のサポートでは、主に体を使った作業が多い。要請に応じて公共広場の土壌整備などを定期的に行っている。2015年からは宗像市の補助金を活用し、自治会再生に向けて本格的な活動を開始した。その中の1つ、自治会再生会議では、大学生と一緒に田久をPRするためのアイデアを出し合った。田久のゆるキャラ「たくみん」はそのアイデアの中から生まれたもの。

今年1月には田久の子どもたちがデザインした「たくみん」

田久自治会組織図



世代を越えて集まる田久有志の会のみなさん

のLINEスタンプの販売も開始した。自治会がキャラクターのLINEスタンプを制作した例は全国的にも珍しい。自治会の理解促進のため、自治会にどんな人がいて、どんなことをしているかを知ってもらうことが必要と考え、今期は自治会のメンバーや取り組みを紹介する専用の冊子制作を検討しているそう。

広がるメンバーの輪

田久有志の会には新しいメンバーも集まってきている。4月から新たにメンバーに加わった品川恭徳さんは、仕事の関係で2年前に長崎から田久に移住した。子どものつながりで知り合った有志の会のメンバーから誘いを受けて入会した。「この場所に来るまでは、住んでいた地域とのつながりは全くありませんでした。この会に入会してから新しく地域のつながりもでき、地域の行事にも積極的に参加するようになり、今はとても充実しています」。田久有志の会にみられるような地域住民主体の新たな任意組織が、これからの自治会を支える大きなポイントとなることが期待される。



タチバナくん、今回の取材も勉強になりましたか？

勉強になったよ！

イベントで着用する田久Tシャツ



公共広場の土壌整備



田久で定期的に行われる地域行事

たくみんは子どもからみた田久のイメージをキャラクターにしたものでデザインも様々。



中学生の頃から周り自分と比較して人に溶け込めないうでいた藤田さんは劣等感の塊だった。人が嫌いだ。これは良くないな、変わらなきゃ」と思っていたものの、人との距離が縮まらずとげとげしていた26歳の頃。彼女にも愛想をつかされフラれてしまう。「あれをきっかけに、もういい加減に変わらんと、と思いましたね。闇を抱えていたとは思えない明るい笑顔で、藤田さんは当時を振り返った。

それからは自分を変えるため、とにかくいろんなイベントに参加した。人と壁を作っていた彼にとっては酷な試練だったが、それでも小学生の頃のように無邪気に笑えるようになった。好きっちゃん北九州」の仲間と出会ったのはそんなときだった。まだ人付き合いはぎこちなかったが、仲間は藤田さんを一人の人間としてそのまま受け入れてくれた。そんな藤田さんは不思議と子どもたちに人気があり、団体のマスコットキャラクターのような存在になる。「藤田は子どもと元気担当」。活動の中で自分の存在が認められ、団体での自分の役割を見出していく中で、「自信がついたというか、自己重要感が満たされていくのを感じました」と藤田さんは言う。

グループを結成して8年。仲間の結婚や育児、転勤が重なり数年活動を休止していたが、年に一度は飲み会を開いて集まるほど仲が良かった。「みんな譲れない想いをもつ熱い

メンバーだらけで、意見をぶつければはたくさん喧嘩してきた。仲間はいつのまにか家族のようになっていた。

「好きっちゃん北九州」の活動は地元の歴史や文化を小学生が地域で調べ、他の地域の小学生に対して自分の地域自慢さながらの発表をするというものだ。「自分自身、地域のことを知っていく中で自然と地元愛が育まれ、北九州を誇りに思うようになった」と藤田さん。「子どもたちにも、自分たちの住む地域に誇りをもってもらえたら」

2017年4月にNPO法人化した「好きっちゃん北九州」。藤田さんは仲間から代表に選ばれた。「職業柄、柔軟に動けるし頼みやすかったんだと思います」と本人は言うが、仲間に信頼され、藤田さんの役割として見出された結果だ。自分の殻に閉じこもるのをやめ、人とコミュニケーションを取って生きていこうと決めたことで仲間と出会い、役割を見つけ、自信をもてるようになった。そしてそんな仲間がいて地元愛にあふれる北九州が大好きなのである。



取材／執行沙恵

アンケート&宗像特産品紹介コーナー

今回の特産品は「川上農園のみかんジュース」です!!

右記QRコードまたはURLからアンケートに答えていただいた読者の皆様の中から抽選で、「川上農園のみかんジュース」をプレゼント! 皆様のご応募、お待ちしております!

抽選で2名

http://ur0.link/DNEI

地元の学校給食で食べられている「川上農園」のみかん

その川上農園のこだわりはなんといっても45年以上かけて作られた土である。有機質に近い肥料に除草剤を使わず刈った草を肥料として加えた土はふかふか。ジュースには一番みかんらしい味の出る温州みかんをふんだんに使用している。1本に約30玉を使っており、生産者自ら絞りに行くジュースは今年300本限定だ。甘みだけでなく酸味もあり、優しくてどこか懐かしい「昔食べたみかん」を思い出させてくれる。

生産地:宗像市大穂・山田・田島 販売店:道の駅むなかた、赤馬館(720ml ¥1,200)
川上農園WEB:www.kawakami-nouen.com Facebook:www.facebook.com/kawakaminouen